

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295300046		
法人名	社会福祉法人 鳳会		
事業所名	グループホーム ふじトピア	ユニット名	Aユニット
所在地	静岡県藤枝市時ヶ谷417-2		
自己評価作成日	平成25年11月6日	評価結果市町村受理日	平成26年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=2295300046-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成25年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの尊厳を重視し、安全で安心できるおもてなしの心を大切にしています。地域とのつながりを密にし、地域資源の活用に繋げていきます。日々の暮らしの中で達成感や満足感を感じながら心穏やかな生活が送れるよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者、職員ともチームワーク良く和気あいあいと毎日のケアを行っている。きっちりやっているが窮屈な感じがなく、気さくで親しみやすい雰囲気がホーム内に溢れ、利用者はゆったりと生き生きと過ごしていた。運営推進会議は、町内会長や民生委員・地域包括支援センター・地域ボランティア・家族代表が参加し、奇数月第4金曜日に定期開催している。年度初めに参加者全員に委嘱状を出し、毎回開催時に次回開催予定を知らせる等丁寧な運営がなされ、いろいろな意見や質問も出ている。地元在住の家族が多く、ほとんどの家族が月1回以上来訪し、通院介助をし、法人の祭に参加する等家族の協力体制ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、朝令時に声に出し一日の目標としている。地域のふれあいを大切に、近隣の馴染みの方々と挨拶を交わすなど努めている。	朝の申し送り時にホームの理念の中から1つの目標を選択し職員の一人ひとりが発声するという方法で、理念の共有を行い、実践に結びつけている。また、法人の理念をカード化し、職員全員が常に携行している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺での散歩や近隣スーパーの利用及び買い物時の挨拶、防災訓練、夏祭り、ふれあい祭り等の参加をしている。	地区の夏祭りに利用者や家族・職員が参加し、公民館のふれあい祭には利用者が共同で作品を出展する一方、法人の祭には近隣の住民・民生委員や地域の中学校生徒がボランティア参加する等交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事への参加、近隣スーパーへの買い物等を通じ、グループホームの存在、あるべき姿を見ていただいている。民生委員等の見学を受け入れを通じ、グループホームの役割を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催でホームの状況、利用者の状況報告、それぞれの立場の率直な意見をいただいている。職員介議での報告、日々のサービスに活かしている	町内会長や民生委員・地域包括支援センター・地域ボランティア・家族代表が参加し、奇数月第4金曜日に定期開催している。年度初めに委嘱状を出状し、毎回次の開催予定を知らせる等丁寧な運営がなされ、意見や質問も出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月一回のさわやか相談員の訪問受け入れで、気づきを伺うことで実情を振り返る。交換会への参加	市担当者からは必要があればファックスや電話で連絡・質問があり、ホームからも電話で照会や確認等を随時行い、協力関係にある。介護相談員(さわやか相談員)の来訪が原則として毎月1回あり、終了後報告がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束ゼロ宣言をし、施設内研修や委員会において、身体拘束を行わない為の認識強化を実施している。見守りの中で玄関を開錠している。	「ゼロ宣言」をし、身体拘束をしないケアについて、法人主催の研修を受講した職員が他職員に受講報告している。マニュアルも作成済みであり職員はいつでも自由に閲覧できる。玄関の施錠は夜間以外していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として施設内研修や委員会において、虐待を行わない為の認識強化を実施している。利用者の身体チェック、言葉遣いなど職員同士で注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修内で学ぶ機会がある。後見人についての利用者を受け入れ直近で学ぶことができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、不明な点がないよう説明をしている。解約時についても不安な点がないよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付窓口の説明、意見箱の設置をしている。面会時の面会記録簿への要望、苦情等の記入があった時は職員で話し合いをしている。	地元在住の家族が多く、ほとんどの家族が月1回以上来訪しており、来訪時に口頭や面会記録簿の来訪者欄記入により希望や意見を聴取し、申し送りで職員全員が共有している。意見箱を設置済みであるが投函はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のスタッフによるカンファレンス、月一度の代表者参加の職員会議等、常に意見を出しあっている。	月1回開催の職員会議は職員が意見を出す時間を設け、毎朝の申し送り時のカンファレンスやサービス担当者会議では活発な意見交換があり、運営に反映させている。自己評価はグループに分かれ職員全員で実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な昇給、資格手当などによる処遇改善、自己啓発の場としての研修参加への奨励に取り組んでいる。希望を取り入れ、働きやすい勤務体制にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、施設外への研修の機会には、参加を促し出勤扱いとして配慮している。必要な研修については、費用の負担をしスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて交流する機会があるので、積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族から生活の様子、ご家族との関係を確認しながら、ご本人とも面接時間を設け、小さなことでも接点を見つけて話の内容に取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や申し込みの段階から傾聴することに心掛けている。安心して入所を決められたという思いを大切にしている。面会時、日ごろの様子を丁寧にお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとしての趣旨説明をしてご理解をいただいている。ご家族・ご本人の要望には常に耳を傾け必要とするサービスを提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴を理解するように努め、その方らしい生活が出来る限り継続できるよう取り組んでいる。一緒に生活することで先輩として教えて頂けることを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の存在が大きな力になっていることを常に伝えている。面会・外出・外泊により家族との繋がりを喜びとなるよう、関係がスムーズにいこうサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも訪ねてこられる環境を作り、友人との会食、親戚・ご近所の馴染の関係を継続できるよう、ご家族の協力を得ながら支援している。	友人の来訪や友人との会食、電話を楽しむ利用者や、家族同伴で外食や法事に出掛けたり、お盆の帰宅や里帰り外泊を楽しむ利用者がある。好物のきんつばを1週間に1回食べに行くのを楽しみにしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について、日々カンファレンスの中で共有し、レクなどを通し利用者同士がコミュニケーションできるような声をかけ、親戚や仲間だという意識をもてるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設・病院の情報が必要な時は紹介を含め、家族の不安などにも相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしや状況から、本人の意向を導き出し、カンファレンスにて職員全員で共有している。	自分から思いを伝えることが困難な利用者には、本人の好きなことや以前からの趣味などの話を投げ掛けて、会話の中から聞き出したり、日々の暮らしの中から本人の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力を得ながら、必要事項の聴き取り、センター方式の実施することで、これまでの状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録から職員全員で日々の生活を共有している。毎朝のカンファレンスにて変化等も報告しており、総合的に理解するよう努めている。毎朝のバイタルチェック時の変化にも気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意向、意見を踏まえてモニタリングやカンファレンスを行い、介護計画の内容を練っている。	利用者3人を職員3人で担当している。サービス計画表・達成度・評価で見直し、担当者会議でモニタリング表を3ヶ月に1回作成し介護計画を6ヶ月に1回作り直して、家族には月1回、訪問時に説明と確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、朝のカンファレンス、月に一度の職員会議で情報を共有しながら見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内の秋祭り等のイベントやデイサービスレクリエーションの参加、医務への相談などグループホーム以外のサービスも取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの定期的な訪問で協力をいただいている。地域イベントの参加や近隣スーパー等の利用を利用して外出の機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医があり、ご家族の同行、協力を得ながら受診している。ホームで気になることがあった時は、受診表を作成し、主治医への情報提供をしている。	会社の方針でもあり、家族の協力のもと、利用者全員以前からのかかりつけ医に受診している。最近の様子や結果はホームに報告がある。個別にかかりつけ医が往診に来ることもあった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一の法人内の特養看護師に協力を仰いでいる。緊急時の判断や、日常での不安なども常に相談し助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、速やかに情報提供書を作成提出、管理者・ケアマネは病院に出向き、様子確認と退院に向けた打ち合わせにも同席している。退院後速やかに以前の生活に戻れるように留意点などの情報を得ながらアドバイスをいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化時の対応の意思確認をしている。対応できる範囲の明確化に努め、必要と判断した時は主治医の往診も取り込んでいる。	重度化や終末期については、契約時に家族と話し合っている。食事ができなくなってしまった利用者が、かかりつけ医と相談して、また食事ができるようになった例もあり、看取りは行っていないが、法人の看護師にアドバイスをもらいながら介護に取り組んでいる。	法人・職員共に、いずれは看取りを行うことについての心積りはあり、検討を含め、重度化や終末期に向けての研修やマニュアルの作成等、今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡先のファイル・救急マニュアルや緊急対応に関する書籍をスタッフルームに常設している。救急車の要請手順を壁に掲示し訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度の法人全体での防災訓練・町内会の防災訓練に参加している。グループホーム独自でも月一回の防災訓練や緊急連絡の訓練をしている。運営推進会議を通し、町内の方々への協力をお願いしている。	月1回、夜間を想定した訓練や通報等、ホーム独自の防災訓練を行っている。また、年1回の法人全体や地域の防災訓練にも参加し、年2回、設備会社が施設の点検を行っている。水や食糧の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時は声をかけ許可をいただく、排泄については大声で言わない等心掛けている。介護記録の方法や管理にも留意している。	利用者のファイル名に個人名表記せず、職員がわかる名称にしたり、排泄チェック表をさりげなく布で隠す等、工夫して個人情報が漏れない管理を行っている。居室へは、必ずノック・声掛けをしてから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に常に寄り添う介護の中で、気持ちを表し自己決定できる環境を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やレクへの参加、入浴など意思を尊重し確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時洋服は一緒に選んでいる。起床時にお化粧される方もあり支援している。訪問美容を利用しカットや毛染めなど、ご希望に沿ったおしゃれをされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなどできることを交代で一緒にしている。調理中の苦労話などで盛り上がりながら楽しく食している。	利用者も調理の盛り付けや片付け・食器洗い等の手伝いをし、その日の様子で、買い物や献立を決めている。食事の進み具合を見ながら、さりげなく声掛けをし、職員と一緒に和やかに食事を楽しむ姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢、嗜好、身体状況により個別に盛り付け、量を調整し、摂取量の記録をしている。水分は食事やおやつに加え、入浴後などにも勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回、食後の口腔ケアを徹底、自分で義歯洗浄できる方にはしていただく。夜間は洗浄剤につけるため預り保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入することで、適切な時間の誘導や介助ができています。その方が出すサインを見逃さないように努め、トイレに行くことが大切な生活リハビリと捉えている。パットの検討も常に行っている。	排泄チェック表で排泄パターンや状況を把握し、利用者のサインを見逃さないようにして、声掛け誘導で居室トイレでの排泄を行っている。ほとんどの利用者が夜間でもパット使用であり、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表にて日々の排便を確認。食物繊維の多い野菜の摂取、水分摂取量の確認をしている。下剤に頼るだけでなく腹部マッサージをしたり起床時の飲水も勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに事前の声かけで、無理強いすることなく行っている。季節に合わせ、菖蒲湯・紅葉湯・ゆず湯等で楽しんでいただいている。	浴室や脱衣所は広く、1日おきに午前中、1対1で入浴している。午前中に入浴しない場合に午後に声掛けをして入浴する場合もある。何日も入浴を拒む利用者もおらず、入浴剤やゆず湯等、入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースに合わせ、自室で過ごしたり、ソファで横にならなったりしている。夜間良眠できるよう日中の活動量、清潔な寝具、室温湿度の環境整備に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬箱に処方箋を添付し把握理解できるよう心掛け、確実に服薬できていることを見守っている。処方に変更があった時は特に注意し観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買物、洗濯干し、食事の手伝いなどでの役割、散歩やドライブ、行事への参加による気分転換などでメリハリのある生活になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買い物をはじめ散歩やドライブの機会をできるだけ設けている。誕生会に外食する支援したり、遠出の際は地域ボランティアにお手伝いいただいている。	近隣を散歩したり、歩いて近くのドラッグストアや、車でスーパーへ買い物に出掛けている。誕生日会に家族と食事に出掛けたり、地域ボランティアの協力を得て、法人のマイクロバスで水族館へ行く等、家族や地域の人々と共に外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金をご家族様からお預かりしており、外出レクの際は好きなものをお土産として買われたりしている。財布を持つことで安心される方には、常にバックの中に入れ、持ち歩いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった時は、お繋ぎしたうえで話されている。届いた手紙に返事が書けるよう、葉書など用意支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	野の草、庭の花など季節の花を飾っている。壁面には季節の移ろいを先取りしたレイアウトを工夫している。エアコン、窓からの自然な風による室温調整をしている。	広く明るい共同空間には、季節を感じる利用者手作りの作品や草花、外出時や行事の写真が飾られている。居間でレクリエーションを行ったり、洗濯物を慣れた手つきでたたむ姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席にいたり、ゆったりとソファに座りテレビを観る、談笑するなど自由に寛いだ時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に今まで使っていた家具を入れて頂き、安心して過ごせるようにしている。大切にしている写真や思い出の品をおき、馴染みのある居室作りを心掛けている。入口の暖簾は個々に違う為目印にもなっている。	全居室にトイレと洗面台が設置され、清潔に保たれている。使い慣れた家具を持ち込み、掛け軸や家族との写真を飾る等、好みの部屋となっている。各々持参した暖簾は、防火用の加工を施し、居室の目印になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口の暖簾は、表札と共にご自分の居室であることを明確にしている。各居室にトイレ・洗面所がありトイレの場所の解りやすい表示の工夫をして自立支援に繋げている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295300046		
法人名	社会福祉法人 鳳会		
事業所名	グルーホーム ふじトピア	ユニット名	Bユニット
所在地	静岡県藤枝市時ヶ谷417-2		
自己評価作成日	平成25年11月6日	評価結果市町村受理日	平成26年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyouvoCd=2295300046-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成25年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、朝令時に声に出し一日の目標としている。地域のふれあいを大切に、近隣の馴染みの方々と挨拶を交わすなど努めている。	※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺での散歩や近隣スーパーの利用及び買い物時の挨拶、防災訓練、夏祭り、ふれあい祭り等の参加をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事への参加、近隣スーパーへの買い物等を通じ、グループホームの存在、あるべき姿を見ていただいている。民生委員等の見学を受け入れを通じ、グループホームの役割を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催でホームの状況、利用者の状況報告、それぞれの立場の率直な意見をいただいている。 職員介議での報告、日々のサービスに活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月一回のさわやか相談員の訪問受け入れで、気づきを伺うことで実情を振り返る。 交換会への参加		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束ゼロ宣言をし、施設内研修や委員会において、身体拘束を行わない為の認識強化を実施している。見守りの中で玄関を開錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として施設内研修や委員会において、虐待を行わない為の認識強化を実施している。利用者の身体チェック、言葉遣いなど職員同士で注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修内で学ぶ機会がある。 後見人についての利用者を受け入れ直近で学ぶことができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、不明な点がないよう説明をしている。 解約時についても不安な点がないよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付窓口の説明、意見箱の設置をしている。面会時の面会記録簿への要望、苦情等の記入があった時は職員で話し合いをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のスタッフによるカンファレンス、月一度の代表者参加の職員会議等、常に意見を出しあっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な昇給、資格手当などによる処遇改善、自己啓発の場としての研修参加への奨励に取り組んでいる。 希望を取り入れ、働きやすい勤務体制にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、施設外への研修の機会には、参加を促し出勤扱いとして配慮している。 必要な研修については、費用の負担をしスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて交流する機会があるので、積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族から生活の様子、ご家族との関係を確認しながら、ご本人とも面接時間を設け、小さなことでも接点を見つけて話の内容に取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や申し込みの段階から傾聴することに心掛けている。安心して入所を決められたという思いを大切にしている。面会時、日ごろの様子を丁寧にお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとしての趣旨説明をしてご理解をいただいている。ご家族・ご本人の要望には常に耳を傾け必要とするサービスを提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴を理解するように努め、その方らしい生活ができる限り継続できるよう取り組んでいる。一緒に生活することで先輩として教えて頂けることを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の存在が大きな力になっていることを常に伝えている。面会・外出・外泊により家族との繋がりを喜びとなるよう、関係がスムーズにいくようサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも訪ねてこられる環境を作り、友人との会食、親戚・ご近所の馴染の関係を継続できるよう、ご家族の協力を得ながら支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について、日々カンファレンスの中で共有し、レクなどを通し利用者同士がコミュニケーションできるような声をかけ、親戚や仲間だという意識をもてるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設・病院の情報が必要な時は紹介を含め、家族の不安などにも相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしや状況から、本人の意向を導き出し、カンファレンスにて職員全員で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力を得ながら、必要事項の聴き取り、センター方式の実施することで、これまでの状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録から職員全員で日々の生活を共有している。毎朝のカンファレンスにて変化等も報告しており、総合的に理解するよう努めている。毎朝のバイタルチェック時の変化にも気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意向、意見を踏まえてモニタリングやカンファレンスを行い、介護計画の内容を練っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、朝のカンファレンス、月に一度の職員会議で情報を共有しながら見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内の秋祭り等のイベントやデイサービスレクリエーションの参加、医務への相談などグループホーム以外でのサービスも取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの定期的な訪問で協力をいただいている。地域イベントの参加や近隣スーパー等の利用を利用して外出の機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医があり、ご家族の同行、協力を得ながら受診している。ホームで気になることがあった時は、受診表を作成し、主治医への情報提供をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一の法人内の特養看護師に協力を仰いでいる。緊急時の判断や、日常での不安なども常に相談し助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、速やかに情報提供書を作成提出、管理者・ケアマネは病院に出向き、様子確認と退院に向けた打ち合わせにも同席している。退院後速やかに以前の生活に戻れるように留意点などの情報を得ながらアドバイスをいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化時の対応の意思確認をしている。対応できる範囲の明確化に努め、必要と判断した時は主治医の往診も取り込んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡先のファイル・救急マニュアルや緊急対応に関する書籍をスタッフルームに常設している。救急車の要請手順を壁に掲示し訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度の法人全体での防災訓練・町内会の防災訓練に参加している。グループホーム独自でも月一回の防災訓練や緊急連絡の訓練をしている。運営推進会議を通し、町内の方々への協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時は声をかけ許可をいただき、排泄については大声で言わない等心掛けている。介護記録の方法や管理にも留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に常に寄り添う介護の中で、気持ちを表し自己決定できる環境を大切にしている。本人の様子を見て常に傾聴できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やレクへの参加、入浴など意思を尊重し確認しながら穏やかだがメリハリのある生活になるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時洋服は一緒に選んでいる。起床時にお化粧される方もあり支援している。訪問美容を利用しカットや毛染めなど、ご希望に沿ったおしゃれをされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなどできることを交代で一緒にしている。達成感を感じてもらいながら楽しく食している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢、嗜好、身体状況により個別に盛り付け、量を調整し、摂取量の記録をしている。水分は食事やおやつに加え、入浴後などにも勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回、食後の口腔ケアを徹底、自立している方もいるので確認しながら、困難な方は介助している。夜間は洗浄剤につけるため預り保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入することで、適切な時間の誘導や介助ができています。その方が出すサインを見逃さないように努め、トイレに行くことが大切な生活リハビリと捉えています。パットの検討も常に行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表にて日々の排便を確認。食物繊維の多い野菜の摂取、水分摂取量の確認をしている。下剤に頼るだけでなく腹部マッサージをしたり起床時の飲水も勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに事前の声かけで、無理強いすることなく行っている。季節に合わせ、菖蒲湯・紅葉湯・ゆず湯等で楽しんでいただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースに合わせ、自室で過ごしたり、ソファで横に横になったりしている。夜間良眠できるよう日中の活動量、清潔な寝具、室温湿度の環境整備に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬箱に処方箋を添付し把握理解できるよう心掛け、確実に服薬できていることを見守っている。処方に変更があった時は特に注意し観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買物、洗濯干し、食事の手伝いなどでの役割、散歩やドライブ、行事への参加による気分転換などでメリハリのある生活になるよう支援している。ボランティアによる工作レクも計画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買い物をはじめ散歩やドライブの機会をできるだけ設けている。誕生会をご家族と外食する支援したり、遠出の際は地域ボランティアにお手伝いいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金をご家族様からお預かりしており、外出レクの際は好きなものをお土産として買われたりしている。財布を持つことで安心される方には、常にバックの中に入れ、持ち歩いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	就寝前の決まった時間に、ご家族の協力を得て、定期的にする方もいたり、電話の希望があった時は、お繋ぎしたうえでお話されている。届いた手紙に返事が書けるよう、葉書など用意支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	野の草、庭の花など季節の花を飾っている。壁面には季節の移ろいを先取りしたレイアウトを工夫している。エアコン、窓からの自然な風による室温調整をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席にいたり、ゆったりとソファに座りテレビを観る、談笑するなど自由に寛いだ時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に今まで使っていた家具を入れて頂き、安心して過ごせるようにしている。大切にしている写真や思い出の品をおき、馴染みのある居室作りを心掛けている。入口の暖簾は個々に違う為目印にもなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口の暖簾は表札と共にご自分の居室であることを明確にしている。各居室にトイレ・洗面所がありトイレの場所の解りやすい表示の工夫をして自立支援に繋げている。		